

HSK なんれん

臨時号
稚内支部版



稚内支部ニュース No 3

昭和48年1月13日 第三種郵便物認可 HSK通巻第264号
毎月10日発行1部100円(会費・協力会費に含まれています。)
編集 財団法人北海道難病連 発行 北海道身体障害者定期刊行物協会

もくじ

- 稚内支部誕生について 支部長 山口清光…………… P 1
難病稚内支部結成大会に参加して
運営委員 野澤厚子…………… P 3
お便りご紹介 稚内保健所保健婦 側貴子…………… P 5
支部だより 豊富町いきいき健康まつり参加…………… P 7
『大山のぶ代さんの講演を聞いて感じたこと』
豊富町 運営委員 佐々木千恵…………… P 8
旭川支部チャリティクリスマスパーティー参加報告
運営委員 山口末子…………… P 10
第1回「障害者の日」記念事業に参加…………… P 12
運営協力会・募金箱設置の御礼 …………… P 13
『難病』って何？今あらためて知っておきたい国内の現状
参考文献「ケア」北海道新聞社発行より…………… P 14
支部結成大会新聞記事…………… P 18

稚内支部誕生について

今年も早2ヶ月が過ぎ、寒さの中にもおだやかな日の光が差し込む季節です。

今年こそ良い治療法・治療薬の開発されることを願っています。皆さん体調はいかがですか、お伺い申し上げます。

今年の冬は暖冬に過ぎ、夏は冷夏で戦後最大の米不作とかで、政府は輸入で事態を過ごすようですが大変ですね。

家の中にばかりいる者にとってもなんとなく慌ただしさを身にかけてくる今日この頃です。

皆様のご熱意で支部誕生後初めて「なんれん稚内支部版」を出すことになりました。

皆さんご存じのとおり昨年10月24日（日曜日）稚内市宝来の総合福祉センター4階の大広間で、（財）北海道難病連稚内支部が誕生しました。

北海道難病連発足20周年の年に、日本最北端の地に20番目の支部として誕生しました。

道北では旭川支部に次いでのことです。稚内支部と言いましても、宗谷支庁（稚内保健所管轄内）が範囲です。

結成大会当日は、前夜からの雨風で大変でした。利尻島・礼文島から10余名参加することになっていたのに、島通いの船が欠航になり残念でした。

フェリーターミナル前のホテルの泊の予約取消しに、事務局長の菊さんは朝早くから大童でした。

そして心配も一つ増えました。この雨風ではご来賓の方より患者・家族の方が少ないのではと考えました。

以前に稚内と言うところは、このような集まりには人の集まりが悪いと脅かされていたので会場で菊氏と頭を抱えまし

た。海鳴りの音も凄く会場のセンターの大広間に聞こえてくるではありませんか、でも幸いに取越苦勞に終わりました。

結成大会の開かれる時間近くになって患者・家族の方々が続々と御出でになり、最終的には来賓が30余名、患者・家族が70余名で私たち世話人をビックリさせるとともに安心させました。このことは市町村の関係者のご理解とご協力によるものと深く感謝申し上げます。

特に稚内保健所の保健婦さんにはお世話になりました。紙面をかりて厚くお礼申し上げます。

結成大会は予定時間通りに北海道難病連伊藤たてお事務局長から稚内支部の事務局長菊氏に、稚内支部旗の授与から始まり、成功裡に終わりました。皆様のお陰と深く感謝申し上げます。

稚内支部と言いましても、部会と違って様々な病気や障害の患者・家族の集いで皆それぞれの悩みを抱えています。

宗谷支庁と言いましても長崎県と同じ広さを持っており、その中に約720名の国や道で定めた、特定疾患患者、私たちが難病患者と呼んでいる方を抱えており、私たち個人の力ではどうにもならないところにきています。

旭川以北に住んでおられる難病患者・家族のための良い医療・よりよい福祉のため、微力ではありますが頑張りたいと思いますので、皆さんご支援下さい。稚内支部誕生の機会に重ねてお願い申し上げます。

市町村の関係者の皆様へも北海道難病連稚内支部を今後ともよろしくお願い申し上げます、稚内支部誕生の挨拶といたします。

1994年2月 北海道難病連稚内支部
支部長 山口 清光

難病連稚内支部結成大会に参加して

全国筋無力症友の会北海道支部会員

北海道難病連稚内支部運営委員

野澤厚子

昨年(2019年)の8月31日に行われた「第77回北海道難病連理事会」に於いて、20番目の支部として「稚内支部」が正式承認され、その結成大会が同年10月24日(日)午後1時から、稚内総合福祉センター4階で開催された。

この日は前日からの強い風と雨の悪天候で利礼航路が欠航し、利礼両島の関係者及び患者が出席できないというアクシデントに見舞われたが、そんな悪天候にも拘わらず、来賓を始め、多くの難病患者が結成大会に足を運んでくれたのである。

山口稚内支部長を始め、菊事務局長、そして運営委員の多くが難病患者であり、夫々が辛い症状を伴う病気を抱えながらも大会準備に奔走してきたことを思うと、一人の力は本当に微力だが、その小さな力が結集すると不可能も可能にする巨大なパワーになることを改めて感じさせられた。

また、結成大会が成功裡の内に幕を閉じることが出来たのは、役員の影響となり、日向になって多方面からサポートしてくれた保健婦さんやボランティアの方々の協力があったからであり、「はげましあい たすけあう難病連」の合言葉ではないが、人と人が励まし合い、助け合うということが、如何に必要であり、大切であるかを実感させられた。

心身に障害やハンディを持つ者は、とかく自分の殻に閉じ籠りがちになる。私自身、全くの健康体から不意に難病の刻印を押された時、そういう時期があったし、現在もその傾向が全くないわけではない。しかし、残念ながら難病と名が付く以上、現代医学では根治は不可能であり、命が尽きるその日まで、多かれ少なかれ病氣と共存していかなければならない。

それならばその現実を真正面から受け止め、自分の殻を打ち砕いて、外の新鮮な空気を胸一杯に吸い込んだところで、改めて自分の病氣のことを考えてみてはどうだろうか。そして、その手掛かりやきっかけを作り、橋渡しになってくれるのが「難病連」のような気がする。

その支部が稚内にも発足したのだから、これまでのように病氣の苦しみや不安を一人で抱え込まないでほしいと切に思う。確かに難病連加盟の患者会に入会したからと言って、病氣が治るわけではない。

しかし、患者会ならではの病氣に関する情報が得られたり、病氣から派生する様々な問題解決になったり、何よりも同じ苦しみや辛さを持つ人々との交流によって、励まされたり、助けられたりということが直接的ではないが、病氣と共存し、更に難病克服への大きな原動力と成り得るのではないだろうか。

（財）北海道難病連稚内支部は産声を上げたばかりの組織だが、私達は何時にも大きな不安と困難を抱えている難病患者とその家族が、自らの苦しみや悩みの体験を通して、お互いに励まし合い、助け合いながら、安心して闘病生活を送れる医療の確立、希望の持てる福祉社会の実現を目指して、力を合わせて頑張っている。

私は病状が不安定なこともあって、役員会には欠席することが多い劣等生の運営委員だが、私のように微力な者でも何か役に立つことがあれば幸いに思う。

【お便りご紹介】

この度の支部結成にあたり、稚内保健所の保健婦さんに、大変お世話になりました。大会当日は受付や救護班としてご協力もいただきました。当日ご参加下さいました側保健婦さんよりお便りをいただきましたのでご紹介します。

稚内地区支部結成おめでとうございます。

去る10月24日の結成大会には、私も出席させていただきましたが、多くの人々が出席し、平成4年からの準備会役員の方の努力の成果なのではと感じました。

これからも益々皆さん頑張ってください。

さて、ここで宗谷管内の難病患者の動向と保健婦の活動についてお話ししたいと思います。

私達の把握している難病患者（特定疾患受給者証交付）の数は、宗谷管内で約720名、病気別で見ますと1位難治性の肝炎（約300名）2位橋本病（約100名）3位パーキンソン氏病（約30名）です。

去年は1年間で約150名の患者さんが増え、年々増加している状況です。

医療機関で見ますと、地元の病院に通院している人が60%と大半を占めますが、名寄、旭川、札幌へと管外に通院している人が35%ほどいます。

専門医療機関に恵まれないため、遠方に通院しなければならない方も多く、長期に治療を続けるのは身体的にも経済的にも大変なことです。

管内では、稚内市、中頓別町が特定疾患の患者さんのために

通院交通費の助成を行っています。

難病患者への医療費補助だけでなく、今後このような福祉的な制度の充実が望まれます。

次に保健婦の活動について紹介したいと思います。

主に、家庭訪問にて療養生活の相談を行っています。

その他では、年1回神経難病訪問検診（専門医、理学療法士、ケースワーカー）とって専門スタッフによる相談、「いちいの会」（パーキンソン氏病と脊髄小脳変性症患者交流会）を行っています。

いちいの会は、平成3年より患者さんからの声で、同じ病気の人との交流の場として年6回開いています。

会では、治療や療養生活の工夫など情報交換の場になっていますし、一番は同じ病気を持つ人同志「励ましあう仲間」になっているのではと感じています。

みんなでゲームなどレクリエーションをして楽しく、和気あいあいとした雰囲気です。

以上簡単ですが、保健婦の活動についてお話しました。何か相談があれば、いつでも気軽に保健婦に声をかけていただけたらと思います。

病気を持ちながら、生活していくことは大変なこともあると思いますが、皆さんで力を合わせ、励まし合い頑張っていってほしいと思います。

稚内保健所 保健婦 側 貴子

《支部だより》

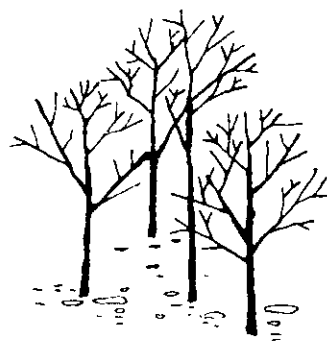
昨年10月31日午前11時より、豊富町町民センターにおいて「第1回豊富町いきいき健康まつり」が開催されました。

当日、稚内支部より3名参加させていただきました。会場内には、福祉機器展示コーナー、体力測定コーナー等多様に会場所狭しと思われる盛大なものでした。

昼食時にはそば、うどんの無料飲食サービスもあり、最後にマルチタレントの大山のぶ代さんの講演「いきいき健康、人生あれこれ」と題して2時間にわたり話され、聴取する多数の町民も感動の一時を過ごした次第です。

地域に根ざした健康づくり事業を地域ぐるみ、家族ぐるみで実践する活動が強く求められている現在、今後、住民の最大の幸福をめざす健康づくりにしていきたいものと感を強くしています。

なお、当日講演の内容を聞かれた豊富町佐々木千恵さんより感想文をいただきましたので支部だよりとして掲載させていただきました。



豊富町いきいき健康まつりに参加して
10月31日豊富町町民センターにて

～大山のぶ代さんの講演を聞いて感じたこと～

豊富町 佐々木千恵

核家族と言われている現在、大山のぶ代さんは12人の家族の中で産声をあげ、明治、大正、昭和の3代家族でご自身と兄とは4代家族になるそうです。

若い人は、核家族を希むが親と子だけの食事はさみしく、また父親は仕事が忙しく、夜子供が寝てから帰り、朝も忙しいため会話も少ない味気無い生活は心の豊かさに向け、食事は楽しい方が良いと大山さんは言う。

健康を考える場合、まず楽しい食事が第一でフランス料理とかお金をかけた料理とかが良いのではなくて、大豆を煮て、こんぶを刻んで煮込んだものを「豆でたっしやで喜こんぶ」と明治が言うと大正の親は、そうよそうなのよと言いながら食事をする。これが栄養に成ると言う。

白いものが降ると（雪のこと）白いものがおいしくなるよ、大根、白菜などなど明治が言うと大正はそれを上手に料理する、昭和はそれをおいしく食べる、こんな簡単な事が栄養になると言う。聞いていてうなづくばかり。そんな家庭で育った大山のぶ代さんだから結婚して25年も経つのに一度の喧嘩もなく、病気にもならず、健康保険証を使った事がないと言う。

女の人は大なり、少なり一年中料理をする。危険な包丁を使い、火を使い、何と何を組合わせてと考える。これがぼけを防ぐのに役立っている。

明治生まれのおばあちゃんは、はしりはだめだめ、匂がいいを口ぐせで私はいいい言葉だと思って聞きました。

こんぶを刻んでするめを刻んで正油とみりんとお酒も入れて、松前漬を造り、少し大山風にして名前をつける。今晚する？

(コンブ&スルメだから) だんな様は、おまえの料理はビタミンHだね、今晚するめ〜とやりかえす。楽しいですね。

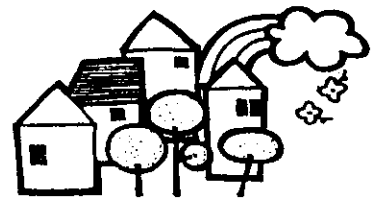
2人の会話で人のかげ口言っても栄養にならず、気分を害するだけ。私は何かの本で読んだ事があり、食事をする前に大きな声で3回笑って食事をするると栄養になるとかでヨーシ実行するぞーと何度誓った事か。正油、箸、そしておかわり、私はころっと忘れて食事する。あっと気付いた時は、終わり頃。

また、忘れた、この次にと思う。

この度は大山のぶ代さんの講演を聞いた事だし、今からでも遅くない楽しい食事を心がけよう、健康のために。

また、夫婦の会話を多くして代名詞を使うのを止めて、「オイ、ソコのアレ取ってくれ」と言われても「ハイ」とは言わず、「何と何ですか、何をするのですか」と言うようにして、ぼけの防止に役立つようにして、長生きしても人の迷惑に少しでもならないように明るく、そして少しオシャレで素敵な老後を迎える事が出来れば素晴らしいと思います。

大山のぶ代さんの講演を聞いて一言書きました。



旭川支部

チャリティクリスマス パーティーに参加しました

稚内支部運営委員 山口末子

今年も残す暦10数枚となった12月19日(日)稚内発7時56分の列車にとび乗り、稚内支部より3名、佐々木さん、菊さん、私と参加することになりました。

正午に旭川駅に降り立って、最初に感じたことはとにかく積雪量の多いことでした。

この時節柄、チャリティクリスマスパーティーを企画され、実行される旭川支部の会員の皆さんの苦労は、並大抵なことではなかったのではと一番の印象でした。

稚内支部が出来てまだ2ヶ月足らず。今後の患者・家族の活動、運営資金を得るための勉強会のためと思って来てみたものこれは大変なことと感じ始め、不安が私の気持ちの中からぬぐい去ることができませんでした。

とにかく14:00よりの開催でしたので3人で会場であるところのジャンボダンススナック「つつじ」に行ってみてびっくりしました。

旭川支部の実行委員の皆さんはじめボランティアの方々が実に心暖まる接し方で私たち3人を出迎えしていただき、一時の不安感も立ち消え、せっかく旭川まで勉強にきたのだから一つでも、二つでも教わって帰ろうという気持になって、約2時間半のひとときでしたがアツという間に過ぎ、稚内に帰る時間帯になりました。

参加した3人とも夢からさめるのにかなりの時間を費やしたのではないのでしょうか。

後日、支部役員会にて報告をさせていただきましたが早い時期といたしますか、早くこのような催しを稚内支部でも実現してみたいと思いました。

最後に旭川支部の役員の方々に多大なお世話になりましたこととお礼申し上げ、報告とさせていただきます。

《事務局からのお知らせ》

★JPC（日本患者・家族団体協議会）国会請願署名と募金活動にご協力を！！

JPCは、わが国における患者運動のナショナルセンターをめざして、1986年6月に結成されました。現在21の地域難病連と11の全国疾病団体が加盟し、「人間の尊厳・生命の尊厳が全てにわたり何よりも大切にされる社会」（結成宣言）の実現を願い、医療や福祉の充実・拡大をめざし運動をすすめています。毎年、総合的難病対策の早期確立を要望するための署名と募金活動を行っております。

署名用紙が各所属部会より届きましたら、ぜひご協力下さい。

★南宗谷地区懇談会を開催しました。

南宗谷管内で初めての地区懇談会が2月16日枝幸町中央コミュニティセンターで開かれました。

当日は管内各町の患者・家族の皆さんや保健婦さんが集まり、自己紹介や口頃不安に思うことなどの意見が出されました。

詳しくは次号支部ニュースでお知らせいたします。

第 1 回 「障害者の日」 記念事業に参加

12月9日、稚内市総合福祉センター4階大ホールで開催された「障害者の日」記念事業に参加しました。

「障害者の日」は国連で「障害者の権利宣言」が昭和50年12月9日に決議された日にちなみ12月9日となっており、全国的な規模で障害者福祉の向上をアピールする大切な日となっています。



今年「アジア・太平洋障害者の10年」のスタートの年でもあり、出来ることなら稚内の障害者関係団体で「ディスカッション今、稚内の福祉に望むもの」を実施して、今アジアの片隅の稚内に暮らす自分たちの置かれている障害者福祉の現状について語り合い、稚内の福祉について考えてみたい。

当日の参加団体は24団体。稚内支部から、運営委員3名参加しました。夜6時30分からでしたので時間に制限があり、ただ各団体の悩みや困難さを訴えるだけ。反省の面が多く来年度からはもっと中味のある記念事業にすべきと考えました。



ご寄贈ありがとうございました。

稚内市富磯在住の東海林兵治さんよりコピー用紙（B5判）2,000枚寄贈していただき、支部事務局は大変助かります。

書面にてお礼とさせていただきます。

運営協力会・募金箱設置
ご協力ありがとうございました！

北海道難病連と支部の活動資金づくりとして前回会報でご案内させていただきました運営協力会員と募金箱について下記の皆様よりご協力いただきました。誌上にて厚くお礼申し上げます。

【運営協力会】（順不同敬称略） 期間1993年4月～1994年1月

稚内市 志和良子様 豊島美奈様 畠山隆様 本間照子様
山口清光様 田中弘子様 菊佳親様 大塚順一様
長谷川建設株式会社様 谷口実様 岡本美重子様
藤本秋義様 一條木様 萱野美恵子様 山田修様
杉本ナミ子様 増永金一様 豊島美奈様

豊富町 伊藤真由美様 佐々木千恵様 杉野森マツエ様
秋葉健様 川井セツ様 杉野森孝様 杉野森繁様
杉野森勇様

礼文町 佐藤ミサオ様

【募金箱設置】

稚内市 稚内市立病院様

豊富町 豊富フードセンター様 豊富町スーパー様
豊富Aコープ様

利尻富士町 福岡商店様

『難病』って何？

今あらためて知っておきたい国内の現状

私は、「後縦靭帯骨化症」の特定疾患のため、毎月稚内から札幌に出て、某病院の医師の診察を受け、注射をしたり、飲み薬をいただいています。

「難病」って簡単に口にするけれどどんな病気なのか理解している人は少ないはず。

この度、私が毎月定期購読している月刊誌の中に難病についての記事が掲載されており、その中からいくつか紹介してみたいと思います。

支部事務局長 菊 清

昭和47年厚生省は難病対策要綱を定めた

「難病」って何？ 不治の病、何万人に一人しか認められない病気、原因のわからない病気。

どのような病気のことを指すのか解釈はまちまちである。そこで厚生省は昭和47年、難病に対する対策として「難病対策要綱」を定めた。

それによると、難病として行政対象となる疾病の範囲は次の二つに整理される。

- ①原因不明、治療法未確立であり、かつ後遺症を残す恐れが少なくない疾患。
- ②経過が慢性にわたり、単に経済的な問題のみならず、介護などに著しく人手を要するために家庭の負担が重く、また精神的にも負担の大きい疾患の二つである。

また、対策としては①調査研究の推進②医療施設の整備③医療費自己負担の解消などを挙げている。

これに基づき、昭和47年に特定疾患調査研究班を組織、翌年には現在の難病医学研究財団を設立するなど難病に対する具体的な治療研究に取り組んでいる。

こうした活動の中で用いられる「特定疾患」の名称で示される病気が一般にいう「難病」と考えていただろう。

ただし、特定疾患イコール難病だが、難病イコール特定疾患ではないことを頭に入れておきたい。

難病には治療費が公費負担となるものがある

前項で説明した特定疾患調査研究班は、昭和47年に8疾患を対象に8班でスタートした。

以後、研究班は平成3年度までに43班までに増えている。

この特定疾患調査研究事業の対象疾患のうち、診断技術が一応確立している上に、かつ難治度・重症度が高く、患者数が比較的少ないために公費負担の方法により治療を促進しないと原因の究明や治療方法の開発などに困難をきたす恐れのある疾患について、「特定疾患治療研究対象疾患」にしている。

この指定を受けた疾患は、治療費（健康保険の自己負担分）について、国が公費で負担してくれることになっている。

厚生省では、このような難病対策について、国の主要な福祉対策の一つとして力を入れていく方針を打ち出しており、今後も特定疾患治療研究対象疾患に指定される疾患は増えていく見通しだ。

また、各都道府県や自治体によっては、厚生省が指定した疾患（1994年2月現在35疾患）のほかに、独自に治療費を

公費負担する疾患を新たに指定しているところもある。

もちろん、本道もそのうちのひとつで現在8疾患を公費負担の対象としている。

特定疾患医療受給者票の申請手続

特定疾患治療研究対象疾患の公費負担を受ける場合には、①医師の診断書②住民票③公費負担を受けたい旨の申請書など、具体的に三つの書類が必要になる。

このうち、①の診断書は医師に依頼すると作成してもらえる。③の申請書は、各地域の市町村役場、保健所などに備えつけてあります。書類を用意したら保健所に提出する。

提出するのは、患者本人はもちろん、家族でもかまわない。申請後は、各都道府県に設置された専門家による委員会が、申請された病気が特定疾患治療研究対象疾患に該当するかどうかを審議する。

この結果、該当することが認定されると、特定疾患医療受給者票が申請者へ交付される。

申請者は、この受給者票を持って指定された病院で治療を受ければ、治療費（健康保険の自己負担分）を支払う必要はない。

なお、地域によっては申請の方法などが異なる場合もあるので、あらかじめ最寄りの保健所に問い合わせるとよいでしょう。

本道では独自に公費負担の対象を指定

既に説明したように、本道では国の特定疾患治療研究対象疾患（つまり国の公費負担の対象となっている疾患）となっていない疾患についても独自に公費負担の対象としている。

対象となっているのは、①難治性肝炎②下垂体機能障害③橋本病④溶血性貧血⑤肺繊維症⑥突発性難聴⑦ステロイドホルモン産生異常症⑧シェーグレン病の8つ。

このほか道では、悪性関節リウマチ、突発性心筋症、ウイルス動脈輪閉塞症、突発性大腿骨頭壊死症などの疾患について治療費を公費負担してきた。

これらは現在、特定疾患治療研究対象疾患となっているが、いずれも道が国に先駆けて公費負担の対象としてきたものだ。

また、本道では血友病の治療研究を単独事業として実施してきており、平成元年度からは独立した国庫補助事業として実施している。

参考文献

ケア 1993年12月号（通巻131）

北海道新聞社発行 発行人 八嶋祥三 編集人 猪股誠也

★ 事務局よりのお願いですが、患者、家族のみなさん、どんな小さなニュースでも良いのですがお便り下されば、次回の支部だよりに載せていきますのでお願いいたします。

連絡・問合せ先

稚内市

道難病連稚内支部が発足

道北で 2番目 会員は100人「入会を」

【稚内】原因や治療法が解明されていなかったり、治療が困難な特定疾患の患者や家族でつくる北海道難病連の稚内支部が二十四日、発足した。道北地方では旭川支部に次いで二番目の支部結成となる。

道難病連は、患者や家族が集まり昭和四十八年に旗揚げした。互いに励まし合い助け合いながら、正しい療養知識を普及することも、難病への理解を訴えるなどの活動を活発に続けていた。

宗谷管内にも支部を設置しようとする管内の患者や家族が集まって昨年十二月、稚内で初の世話人会を開催。今年三月、準備会（山口清光代表）をつくり支部昇格へ向けて運動してきた。稚内市総合福祉センター

谷管内には現在、約七百二十人の難病患者があり、同支部は入会を呼びかけている。連絡先は菊清事務局長 0162・33・360 8へ。



難病患者や家族の結束を誓った支部結成大会

10月26日 北海道新聞

道内で20番目

難病連稚内支部発足

北海道難病連稚内支部結成大会は二十四日、市総合福祉センターに来賓、会員合せて八十人が出席して開き、道内二十番目の難病連支部組織が正式発足した。

宗谷管内七百二十人の難病認定患者と家族が親睦交流を深めながら、治療や療養上の問題解決を図ろうと、昨年からの支部準備会（山口清光世話人代表）を結成。関係機関の助言、協力を得ながら組織づくりを行ってきた。こうした活動が道難病か

日刊宗谷

7つのスローガン

- ☆国と道は、原因の究明と治療法の確立を急いで下さい!!
- ☆全ての難病の治療を公費負担にして下さい!!
- ☆介護手当の支給と通院交通費、付添費の補助を!!
- ☆患者、障害児者の教育の選択権を親と子に!!
- ☆医療過誤、薬害を無くし被害者救済を!!
- ☆北海道の総合的な難病対策の確立を一日も早く!!
- ☆広く道民と手を結び明るい福祉社会を実現させよう!!



財団法人——北海道

難病連

☆私たちの住んでいる地域の医療・地域の福祉
地域の活動を!!

☆難病患者・障害者・高齢者が
安心して暮らせる社会を!!

HSKなんれん臨時号

編集人／財団法人北海道難病連 伊藤 たてお

札幌市中央区南4条西10丁目 ☎011-512-3233

昭和48年1月13日第三種郵便物認可

1994年3月10日発行HSK通巻264号(毎月1回10日発行)

発行人／北海道身体障害者定期刊行物協会 細川 久美子

札幌市中央区北9条西19丁目55